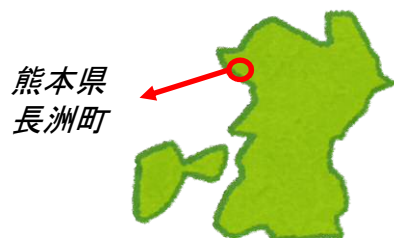


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28,29年度:計画作成主体:長洲町農業再生協議会)(熊本県)

取組の概要

対象品目 : 小麦(産地全体面積:296ha)
主な取組主体:長洲町米麦推進部会
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
基準(H27年度)4,267円/10a
目標(R1年度)4,756円/10a
導入施設等 : 生産支援事業(トラクター等の大型農業機械のリース導入)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

大規模経営に対応するために、ほ場の集積・集約化を図り、作業の効率化を推進する必要がある。

適期作業の徹底、収穫作業の効率化により、生産技術の向上及び所得の向上を図る。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①担い手が小麦の作付けに転換するために必要な機械等のリース導入支援
- ②県振興局及び農協による適期作業、管理指導等の技術的指導

産地体制

- 地域の関係者(長洲町・JAたまな・県玉名地域振興局)が一体となり、事業を推進。
- JAたまな長洲総合支所米麦推進部会を技術の普及組織として位置づけ。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 県振興局及び農協による適期作業、管理指導等の技術的指導を行う。
- JAたまな長洲総合支所米麦推進部会を技術の普及組織として位置づけ、取組主体以外の生産者に対しても講習会等による適期作業等の推進、中間管理作業等の徹底を行う。

取組成果

- 事業を活用することにより、大型農業機械を導入し、生産規模の拡大や収穫作業が効率化。
- 販売額の増加により、生産者の所得向上につながり、小麦の産地強化を実現。



販売額が58%増加
(達成率508.4%)

目標値(R1年度)
4,756円/10a

4,267円/10a

6,753円/10a

H27年度

R1年度

